マリ共和国
支援プロジェクト

IPU環太平洋大学
平田　華士　　今井　仁

マリ共和国はどこにある？

正式名称:マリ共和国

首都:バマコ

公用語:バンバラ語、フランス語

宗教:イスラム教が多数。

地理:西アフリカの内陸国

　　北部にはサハラ砂漠

　　南部にはニジェール川

国土:面積は日本の約3.3倍

人口:約2,448万人（2024年）

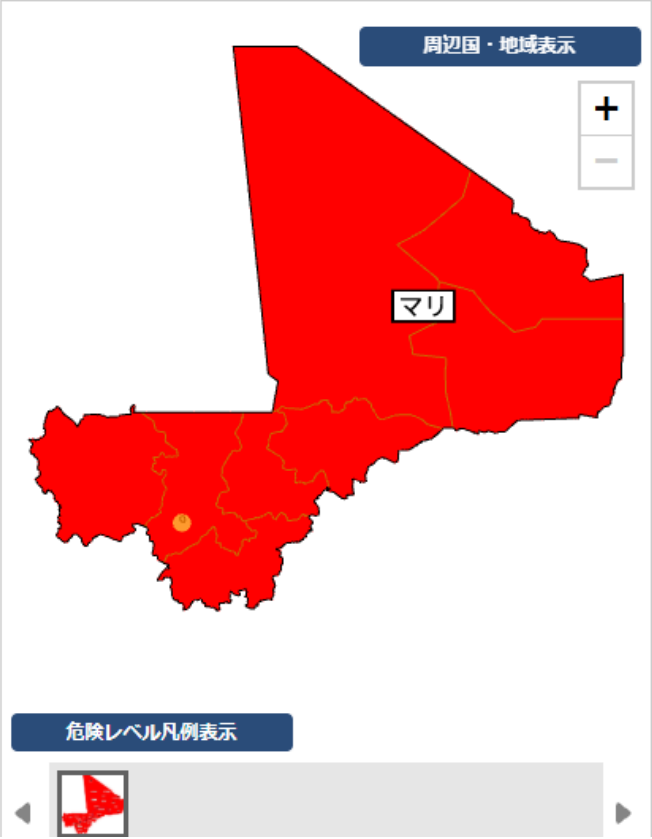
岡山県にマリ出身者が多い？

	平成30年 (2018.12)	令和元年 (2019.12)	令和2年 (2020.12)	令和3年 (2021.12)	令和4年 (2022.12)	令和5年 (2023.12)
アフリカ(R5：29か国)	90	117	112	128	154	162
エジプト	24	36	26	25	26	24
ガーナ	7	14	18	18	23	26
ケニア	16	18	15	15	19	18
チュニジア	4	7	7	7	8	9
ナイジェリア	8	9	11	14	21	26
マリ	1	1	1	2	7	8
南アフリカ共和国	4	5	7	9	9	6
その他(R5：22か国)	26	27	27	38	41	45

岡山県における在留外国人の状況（令和5(2023)年12月末)より

令和7年10月現在　**24人在住**（当プロジェクト調査より）

マリ共和国の現状



危険レベル・ポイント

【危険レベル】

●全土（首都バマコを除く）

レベル4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）（継続）

●首都バマコ

レベル3：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）（継続）

【ポイント】

●マリでは、2020年8月及び2021年5月にマリ国軍の一部兵士による武力政変が発生するなど、政治社会情勢が不安定となっています。

●2024年9月17日、首都バマコにおいて、バマコ国際空港及び空港近郊の憲兵隊訓練校に対するテロ攻撃が発生するなど、イスラム過激派組織によるテロの脅威の南下・拡大の兆候が見られます。

●バマコを含むマリ全土において、テロ・誘拐事件等の不測の事態に巻き込まれる高い脅威があります。どのような目的であれ渡航は止めてください。また、レベル4の地域に既に滞在されている方は、直ちにこれらの地域の外（安全な場所）に退避してください。

慢性的な食糧不足や貧困など厳しい現状

昨年度までの取り組み

玉野市立荘内中学校と岡山県立岡山操山高等学校で

回収した衣類をマリ共和国へ発送

昨年度までの取り組み

マリの子どもに古着贈る

環太平洋大生 貧困支援

第1弾100着 県内小中高、協力し集める

環太平洋大（岡山市東区瀬戸町観音寺）の学生たちが、西アフリカのマリに古着を贈るプロジェクトに乗り出した。不安定な政情や経済基盤のもろさを背景に、貧困にあえぐ子どもたちを支えようと企画した。岡山県内の小中高とも連携し、収集から選別、費用調達までを担い、3月には現地へ初めて届けた。今後、参加校の輪を広げていく計画だ。（古川竜聖）

「自分に合うサイズや色の服を手に取り『ありがとう』と喜ぶ子どもたちの笑顔が印象的で、活動の大切さを痛感した」。マリ出身で環太平洋大の教壇に立つサリフ・サコ講師（45）が、古里で3月に行った古着提供第1弾を振り返った。

社会課題の解決を目指す同大経済経営学部の大池淳一准教授（48）が昨秋、マリの子どもたちが着る服に困っていると同僚のサコ講師から聞き、プロジェクトに着手。米を贈る活動でマリを長年支援する津山市立高野小、大池准教授が講師として登壇したことのある玉野市立荘内中、操山高（岡山市）にも声をかけ、活動を本格化させた。

荘内中や操山高では校内に収集用の箱を置き、古着約50キロ分を集めた。大学生も加わって現地の気候に合う服を選別。第1弾はTシャツやズボン、ベビー服など計約20キロ（約100着分）を届けた。

輸送費用も学生や両校の生徒が自分たちで調達。各校内で寄付を募ったほか、荘内中では生徒が開く地域イベントでマリ産のクッションカバーなどを販売して、計約4万5千円を集めた。

マリでは近年、軍事クーデターが相次ぐなど政情不安が続く。5歳未満の子どもの致死率が高いほか、児童労働、人身取引といった課題も横たわる。北部では武装勢力やテロ組織が横行し、住民は南部や近隣諸国に避難しているという。贈り先には避難児童らが通う首都バマコの学校を選んだという。

「マリの子どもたちに喜んでもらえてうれしい。将来は現地に行ってみたい」と環太平洋大3年平田華士さん（20）。

学生たちは今後、オンラインで子どもたちと交流するほか、現地で不足する靴や文房具の提供も検討。輸送費用を賄うため、賛同校を増やすとともに、企業にも支援を呼びかける。サコ講師は「欲しいものが手に入りやすい日本との違いを知り、世界で起きている問題に目を向けてほしい」と話している。

サコ講師（左）が届けた服を手に取るマリの子どもたち（大池准教授提供）

マリに贈る古着を手にする環太平洋大の学生（左の2人）と荘内中の生徒（大池准教授提供）

スーム マリ 西アフリカの内陸国。面積は124万平方キロ（日本の約3・3倍）で、北部はサハラ砂漠が広がり、南部のニジェール川に沿って都市が形成されている。人口は約2300万人で、20以上の民族が住み、約9割がイスラム教徒という。旧フランス植民地のため、学校教育などはフランス語で行われる。近年はクーデターが相次ぐなど政情不安が続き、現在は軍事政権が統治している。首都はバマコ。

2025年4月11日付　山陽新聞

昨年度の課題

●衣類は重量があり、容量も大きい

●高額の輸送費がかかる

検討課題①：支援物品の見直し

検討課題②：輸送費の捻出方法

今年度の活動

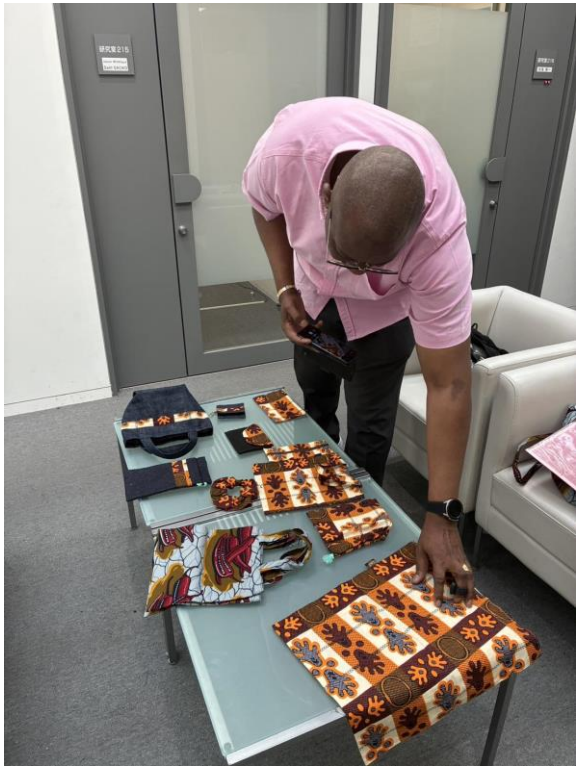
支援物品の見直し

衣類 → 文房具

単なる不用品の回収ではなく、「学びの道具を届ける」活動へ

今年度の活動

マリのことを知ってもらう活動



マリ布を使用した製品を作る

総社高校家政科に試作を依頼

今年度の活動

岡山県立岡山操山高校文化祭
岡山県立総社高校文化祭　で販売

今年度の活動

玉野市立荘内中学校で文房具回収

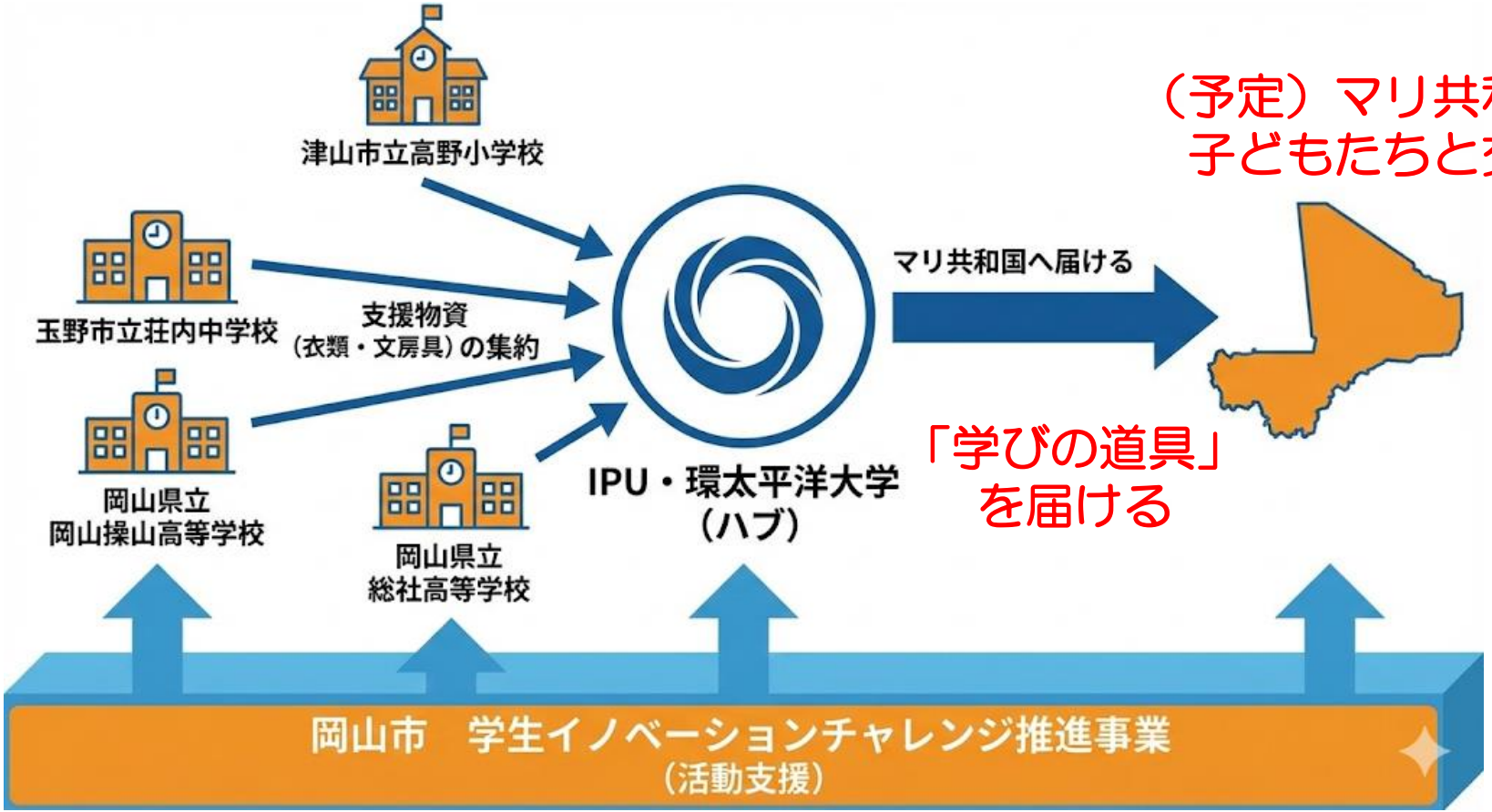
今年度の活動

津山市立高野小学校で文房具回収

今年度の活動

文房具２６ｋｇをマリ共和国へ発送

今後の活動（予定）


津山市立高野小学校
玉野市立荘内中学校
岡山県立
岡山操山高等学校
岡山県立
総社高等学校
支援物資
（衣類・文房具）の集約
IPU・環太平洋大学
（ハブ）
マリ共和国へ届ける
（予定）マリ共和国の
子どもたちと交流
「学びの道具」
を届ける
岡山市　学生イノベーションチャレンジ推進事業
（活動支援）